



## お江戸舟遊び瓦版 179号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり  
お江戸観光エコシティー・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

吉田傑俊「**福沢諭吉と中江兆民**」大月書店、2008

はじめに 亀戸天神片隅に『中江兆民翁の碑』があり、隣にマッチ塚がある。教科書的には良く知られた歴史上の人物だが、何故亀戸天神なのか気になっていた。そんな時にこの本に出くわした。

### 第1章 福沢諭吉と中江兆民——〈近代化〉と〈民主化〉の思想家

- 日本の近代化が開始された明治初頭に二人の巨大な思想家が現れ、ともに日本の進路を指し示した。



福沢諭吉 (1835-1901) と中江兆民 (1847-1901) は思想と実践において対照的な生涯である。

- 福沢諭吉** 中津藩の下級藩士の家に生まれ、ペリー来日の翌年長崎で蘭学を学び、後に英語に転じた。1860年遣米使節団、1862年遣欧使節団、1867年遣米使節団に随行している。1868年慶応義塾開校、以後幕臣から身を引き、民間で教育と著作活動に専念する。1872年「学問のすすめ」を出版。1873年「文明論の概略」を出版、民権論から国権論に移行し、「脱亜論」に見られるように「富国強兵」論を主張し、民間にあって政府の政策をリードした。福沢は明治の政治・経済・思想界に大きな影響を与えつつ、生涯を全う。享年66歳。
- 中江兆民** 高知藩の足軽の家に生まれ、1865年長崎でフランス語を学ぶ、67年江戸に向かい、深川佐賀町の村上英俊の下でフランス語を学ぶも破門され、他の塾でフランス語を深める。明治維新政府の岩倉使節団に加わり、フランスに2年半学ぶ。1874年に帰国後「仏学塾」を開き、ルソーの「民約論」を訳す。1881年西園寺公望らと「東洋自由新聞」を発刊し、自由民権運動に参加しはじめるも、政府の干渉により1月余で廃刊に。その後、仏学塾から「欧米政理叢談」「民約訳解」を出版し、**東洋のルソー**と称される。1889年、第1回衆議院選挙に当選、民党大同団結のために献身するも成功せず。議員を辞し、実業界に入り、いろいろな事業を起こすも成功せず。10年後、病床で「一年有半」等、独自の唯物論を展開して54歳で死去。
- 19世紀後半に西欧からの開国要求の中で、〈近代化〉を開始した啓蒙思想と、その〈民主化〉を企てた自由民権思想は、歴史的限定条件の中でどのように展開したのか。「革命」ではなく王政復古による「維新」によって成立した明治新政府は、明治4年には廃藩置県、翌5年藩兵制解体、2年後地租改正を行い経済的基盤の確立に向かった。
- 自由民権運動** 地租改正は過重な地租率や官の一方的な地価決定によって、農民の幻滅と怒りを買って農民による反政府一揆が勃発した。この情勢の中で、1874年征韓論に敗れて下野した板垣退助など旧参議が愛国公党を結成し、自由民権運動が始まる。1875年全国的な民権運動の高まりに、政府は集会規制とともに、早期議会開設論の大隈重信追放の「14年の政変」を起こし、10年後の「憲法制定と国会開設」の詔勅を發布した。この時期から、伊藤を中心とする藩閥政治は「富国強兵」路線を本格化し、下層農民の疲弊は激しくなった。
- ここに、民権運動も豪農商と農民大衆の分裂が進み、各地で大衆蜂起が勃発した。福島事件、群馬事件、加波山事件、秩父事件などである。こうした民衆蜂起は政府の徹底した弾圧を受け、自由党指導部の動揺もあり、敗北した。1887年政府は多くの民権活動家を東京から追放し、自由民権運動は、1889年の大日本帝国憲法の公布で敗北の内に終息した。

- ・ 啓蒙思想と自由民権思想の対立は、〈近代化〉と〈民主化〉をめぐる対立である。
- ・ 歴史の中で喜怒哀楽をもって生きる人々にとって歴史は日々の生活である。日本近代化の出発点に当る明治初頭における 2 つの思想と運動の対立と結果は、その後の日本の進路に関してほぼ決定的な影響を与えた。

## 第2章 福沢諭吉の〈近代化〉思想

- ・ 福沢諭吉は日本の啓蒙主義の代表者であり、毀誉褒貶の多い思想家でもある。民権論者なのか、国権論者なのか、民権論から国権論への転回・転向者かなど様々な評価がなされてきた。遠山茂樹は明治 14 年の政変、丸山真男は日清戦争の勝利で帝国主義者に転向したと見ている。
- ・ 日清戦争を契機として、多くの民権論者が帝国主義者に転向していった。

## 第3章 中江兆民の〈民主化〉思想

- ・ 中江兆民は名実ともに自由民権運動の代表的思想家であるが、具体的な活動は 35 才の時の「東洋自由新聞」発刊からである。発刊後の「東洋自由新聞」には兆民の向かうべき思想的・政治的目標：「人間的自由」の獲得と「君民共治」の実現がほとぼしるように示されたが、1 ヶ月 34 号で廃刊を余儀なくされた。しかし、怯むことなくルソーの「民約訳解」を公刊し、ルソー思想の実践的活用の方向を示した。
- ・ 兆民はヨーロッパでは国会を開設し、人望のあるものを選挙し、税金や法律・政治は衆議によって決定すると強調し、文明の発展と民主的政治の関係を説き、自由・平等・友愛を社会の根幹とする民主制を強調した。また、兆民は西欧の政治概念を日本における独自の概念に置き換え、日本の実情の中で実現しようとする苦心の試み「君民共治」を提示している。
- ・ 兆民は、憲法制定・国会開設を控えた 1887 年から 1890 年に「平民の目覚まし」、「国会論」、「選挙人目覚まし」などの実践的啓蒙書を出版し、実践に役立てようと国会・君主・政府・憲法・政党・与論についてなど政治の基本問題を平易に説き明かしている。
- ・ 兆民が精力的な理論活動を続けた時期は、きわめて重要な政治的な時で、旺盛な実践活動も行っている。当時の民権派：「民党」には、旧自由党に関する 3 グループ（兆民、後藤象二郎、板垣退助）、大隈重信立憲制改進黨、九州同士の 5 グループで、統一行動がなかったにもかかわらず、第 1 回衆議院選挙では民党 170、政府支持派 130 であった。兆民も大阪 4 区で一位当選した。兆民は選挙後、民権 5 派の統一に奔走し、論陣を張ったが、不調に終わる。
- ・ 兆民は、人間は他人との平等な関係の中ではじめて自由を獲得し、それを得たことにより欲望の奴隷という動物性から解放され、自ら規律する人間性・道徳的自由を獲得すると説いた。政治の目的は人民に政治を無用にすること。日本最初の西洋哲学概論『理学鉤玄』を纏めた。
- ・ ある意味で政治を諦め、兆民が実業に手を染めておよそ 10 年、食道がんになり、余命 1 年有半といわれ、『一年有半』を出版した。自己の「理学」的生涯を顧みつつ、明治社会批判を徹底した書物。社会に容れられずとも、自由民権思想と実践を一貫してきた自負が見られる。
- ・ 兆民は明治社会の最大の欠陥を「哲学不在」とし、「わが日本古より今に至るまで哲学なし」と言い、兆民の生涯最後の試みは、哲学不在の国民に唯物論哲学を提示することであった。

## 第4章 福沢・兆民の思想と現代

- ・ 福沢は成功し、兆民は失敗した（加藤周一）という命題がある。
- ・ 兆民の愛弟子の幸徳秋水は、兆民を「革命の鼓吹者」と位置づけている。

あとがき： 福沢と兆民を読む中での実感は、**仕事の質と量の大きさと実践的意欲の張り**である。

所感： 最近、中国やインド、ブラジル等の工業化で、日本の産業界は抜本的な見直しが必要ではないかと苦吟し始めた。そんなことから「福沢の成功・兆民の失敗」は根底から見直される時期ではないかと思われる。日本における産業革命や労働・消費者運動の先進地域でもある江東区にとって自由民権運動〈民主化〉の中江兆民は歴史上最重要人物ではないかと考察される。

なお、兆民全集等によると、明治 40 年に板垣退助、大隈重信らが発起し、友人門下生らによって建てられたと書かれている。今後、観光資源としても注目していきたい。(文責 中瀬)